

消防団互助会補助金の方向性について

委員名	方向性	理由など
大石委員	廃止	他の自治体、市職員互助会の補助を廃止しているため、制度廃止にも理解を得られると考える。
間淵委員	廃止	結論は「廃止」だが、団員との対話をしっかりと行い、「突然」と思われない配慮が必要。決定まで1～2年。決定後1年の猶予を経て廃止する。歳出を精査し、「必要なもの」「不必要なもの」を仕分けすることから始める。不必要なものを削減することが、団員の活動に対する負担感が軽減される可能性もある。
藤田委員	廃止	活動内容は高く評価するが、近隣市の互助会実施状況では互助会への補助金制度のない自治体も多いので、廃止の方向でもよいと考える。
白井委員	廃止	互助会の組織運営を考慮し、段階的縮小の上、廃止もやむを得ないと考えます。
金原委員	廃止	委託及び委任業務の負担金または分担金以外はゼロベースで見直す必要があるため「廃止」
近藤委員	縮小	活動の内容を考えると補助金がある事のメリットがあっても良いと思う。 親睦会など必要以上な所は減らせるのではないかな。
辻岡委員	現状維持	現状の組織を維持している間は、現状と変わらずに組織を維持していけばよいと思います。
澤木委員	現状維持	市民の生命や財産を災害から守る上で、市消防職員と同じくらい消防団員が欠かせない存在であれば、市としても、可能な範囲内で、バックアップすることが当然のことだと考えます。しかし、互助会の運営に関する補助として、公金を投入するため、オープンにできる情報はオープンにすることで透明性を確保し、消防団の活動について市民の理解を得られていることが重要です。理解が得られていれば、今すぐに縮小・廃止の必要はないと考えますが、補助金に頼らなくても活動して行ける消防団を目指し、先進事例（女性団員、学生団員、機能別団員の活用）を参考に、消防団員数減に歯止めをかけられるような打開策を模索し続け、実行し、成果を上げていきたいと思っています。
鈴木委員	現状維持	互助会を続ける上では現状維持としたが、互助会自体を存続するのかどうかを、団員相互で考えてもらってはどうかと思う。

集 計				
	拡 大	現状維持	縮 小	廃 止
事前調査	0	3	1	5
審 議 会				